

国立環境研究所安全確保・省エネ化設備更新事業（国立環境研究所施設整備費補助金）



【令和6年度補正予算（案） 600百万円】

国立環境研究所の研究機能を維持するため安全確保・省エネ化対策整備を実施します。

1. 事業目的

国立環境研究所つくば本構の有害排気浄化装置や化学物質管理区域に係る空調設備は、設置から20年が経過し老朽化が著しいため、職員の安全確保及び建物の保安全管理並びに省エネ化のため更新整備する。

2. 事業内容

国立環境研究所は、幅広い環境研究に学際的かつ総合的に取り組む我が国唯一の研究所として環境問題の解決に重要な役割を果たしてきた。

研究所の設備には設置から20年を経過して故障が頻発し、保守部品の確保も困難になっているものがある。これら設備が正常に作動しない場合、職員の安全が確保できず危険であり、さらに周辺に被害が拡大する恐れ、また国内外の政策にも活用される研究試料を喪失する可能性などがあるため、更新整備する。その際、脱炭素化に資する省エネ化も図る。

1. 研究本館Ⅲ化学物質管理区域 安全確保空調更新整備
2. 環境試料長期保存設備更新整備工事
3. 有害排気浄化装置（スクラバー）安全確保更新整備

3. 事業スキーム

- 事業形態 直接補助事業
- 補助対象 研究機関（国立研究開発法人国立環境研究所）
- 実施期間 令和6年度

4. 整備イメージ及び故障の状態

1. 化学物質管理区域空調設備



←化学物質管理区域に係る空調設備
↓腐食による穴

2. 環境試料長期保存設備

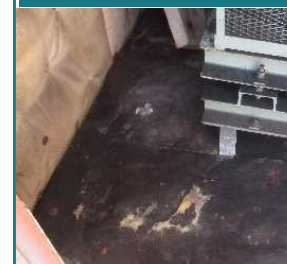
試料保存設備→数十年分の貴重な試料を保管。気密不良による霜の発生。



←生物試料。過去の環境中の化学物質や重金属汚染状況を検証できる。

←設備裏側。気密不良により常に水が大量に溜まった状態。

3. 有害排気浄化装置（スクラバー）



↑装置内部は老朽化が進み、雨水侵入による素材の劣化やモーター異常、配管の漏水等も生じている。